

性格悪くなりました

第8期生 奥野 朱子

「～に入ってから成長したいと思っています！」入ゼミ、そして就職活動でよく聞かれるフレーズである。これを聞いたたびに私は「成長ってなんやねん。人によって違うやろ。簡単に使うな！」と思っていらっとする。かくいう私も小野ゼミのESにこのフレーズを書いた（気がする）。成長とはなんであろうか。そして私は小野ゼミ、また大学4年間を通じて成長したのであろうか。

「成長」を辞書でひいてみると、「①育って大きくなること。育って成熟すること。②俗には発育と同じ意味で用い、生物学では生体の量の増加を指し、形態形成あるいは形態変化に対していう。」（広辞苑第5版）とある。私が大学4年間で大きくなったこと、成熟したこと、増加したこと、変化したこと、とは一体？確実にいえることは大学入学時の自分と比べて今の自分は4年分の「経験」を積んでいるということだ。引っ越しも、一人暮らしも、徹夜も大学に入って初めて経験した。小野ゼミでは初めてのことだらけだった。初めてケースを解いた、ディベートをした、論文を書いた。初めて気の合わない人とあれほど長時間一緒にグループワークをした。こういった経験を積んで、私に変化したと思うことは自分の「考え方」だ。端的にいうと、性格が悪くなったと思う。しかし、このことを高校の友人と話してみると、奥野は丸くなった、と言われた。どういうことだろうか？考えた結果、私は視野が広がってきたのと同時に自分の考え方が固まってきたのだ、という結論に至った。視野が広がったから様々な人がいることを理解できるようになった。しかし、自分の考え方が固まってきたから、それを批判、批評するようになったのだ。固まった考え方、とはすなわち、こだわりであり、芯であり、就活でいうモノサシであり、某先輩のいう背骨（2010年度OBOG会誌7期白石さん参照）である。自分の考え方が変わったこと、固まってきたこと、これが、私が小野ゼミを通じて、そして大学4年間を通じて成長したことであると思う。

最後にもうひとつ、中高時代の国語教師がよく引用していた言葉を紹介したい。

思いは行いになり、行いは習慣を生み、習慣が品性をつくり、品性は運命を変える。

小野ゼミを通じて固まってきた私の考え方、思い。これは一体どのような運命を導くのだろうか。数年後、数十年後に振り返ってみたいと思う。そして、その時になってはじめて、自分の考え方を変化させてきた小野ゼミでの経験の意味を知ることになると思う。拙く、まとまりのない文章になってしまったが、そろそろ卒論の誤字脱字チェックに戻るべく、この辺で筆を置くこととする。